

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2775004837
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 東大阪加納
所在地	大阪府東大阪市加納1丁目4-35 (電話) 072-960-1320

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年5月15日

## 【情報提供票より】(平成20年3月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	13.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> ( 300,000 円 )	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年3月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	孫クリニック・村上歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バス停「加納」駅より徒歩5分の所に位置し、閑静な住宅街にあります。開設3年目を迎えたホームの佇まいは地域に溶け込んでいます。ホームの案内掲示板がすぐ目にとまり訪問しやすい雰囲気となっています。法人の理念の基で全職員は、入居者が穏やかに楽しく毎日を過ごして頂けるように笑顔で頑張っておられます。ホームの自慢は毎日、手作りの美味しい食事を提供できる事、一人ひとりの思いや暮らし方を大切にする事でありそれらを念頭に置きながらケアに取り組まれています。入居者は、フロアや各居室で思い思いに過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は、職員と一緒に調理する環境作りでしたが、身体機能Lの低下により難しくなっているのが現状です。出来る方は、後片付けや食器洗いなどを一緒にされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解され、ユニットリーダーが中心となり職員と話し合いまとめています。実施指導や外部評価が続き、改めて検討する機会となっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回地域包括・家族・入居者・職員の参加により開催されています。地域の方は、日程調整上、参加が難しくなっています。会議の運営を工夫し継続されていますが、内容の充実が今後の課題となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会に来られた時家族から意見が出され、話をする機会を大切にしておられます。苦情より相談が多く現場リーダーが対応し、運営に反映されています。苦情箱も設置されています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの隣がオーナーの自宅となっており、自治会の入会や行事などに協力してもらっています。現在、幼稚園より音楽会の招待を受け交流されています。ボランティアも受け入れ歌・踊り等が披露され入居者と交流を図っておられます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが安心して穏やかにくらす居場所を提供し支援することを基に、「1その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。2心をこめた親切なサービスに努めその心を磨き続けます。3さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします。」を法人の理念としています。	○	法人の理念を基に地域の特性を活かした独自の理念について、全職員と話し合い、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に周知するため毎朝、理念を唱和されていて理念を共有し実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの隣がオーナーの自宅となっており自治会の入会や行事などには協力してもらっています。幼稚園より音楽会の招待を受け交流されています。ボランティアも受け入れ歌・踊り等が披露され入居者と交流を図っておられます。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解され、ユニットリーダーが中心となり職員と話し合いまとめています。実施指導や外部評価が続き、改めて検討する機会となっています。前回の改善課題は、職員と一緒に調理出きる環境作りでしたが身体機能の低下により難しくなっています。	○	現場リーダーの方が主体となって自己評価に取り組まれています。サービスの質の向上に向けスタッフ全員で自己評価に取り組まれる事を期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域包括・家族・入居者・職員の参加により開催されています。地域の方は、日程調整上、参加が難しくなっています。会議の運営を工夫し継続されていますが内容の充実が今後の課題となっています。	○	地域の交流を継続する為には、地域の方の参加が望まれます。充実した会議を運営するためにもホームから地域へ発信する機会を設けてみてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が開催する研修などに参加され情報を得よう努力されています。疑問、問題の改善のためにも行政を訪れる機会を増やしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時、直接話し、日々の様子を伝えておられます。法人が発行されるグループホームだより”ラブレター”を春夏秋冬版にて配布しています。独自のおたよりは作ってられません。日々の写真を撮った裏にメモ書きで様子を知らせています。	○	定期的にホーム独自のたよりを発行され、家族に日頃の様子や暮らしぶり伝えられてはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時、家族から意見が出され、話をする機会を大切にしておられます。苦情より相談が多く現場リーダーが対応し、運営に反映されています。苦情箱を設置されていますが活用はありません。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を作るために絶えず声かけし、距離を作らないよう配慮されています。ユニットのスタッフ5名は代わる事なく勤務されているので日々安定した暮らしが継続されています。新しい職員は、ユニットリーダーが教育担当をされ入居者と馴染みの関係になるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、ユニットリーダーが参加され伝達研修の形で報告されています。研修制度ができていないので、今後、法人内で研修する事を検討されています。	○	現在、法人内で検討されている研修計画に全職員が参加される事を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は同業者との交流をもっておられたが現在は中断された状態です。	○	法人全体での研修や交流について話し合わせ、法人間で準備中ですが、他のグループホームとの交流も検討されてはいかがでしょうか。見学や相互訪問を持つことによりサービスの向上が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が相談に来られる事が多く入居まで、自宅を訪問し状況を把握されています。見学に来られた時に入居者と一緒に食事をされ馴染みの関係づくりに配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の持っている力を見極め、役割を用意されています。入居者の意思を尊重し無理強ひせず出来る方は、職員と一緒に菜園を作られています。家事一般(洗濯たたみ、下膳、部分的な炊事、おやつ作り)なども職員と一緒にされています。学んだり支え合える関係作りには、話をする時間を多くとっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に意見や意向を聞き、随時カンファレンスを開いて把握に努めています。一人ひとりの思いや暮らし方を大切にされており、入居者の生活リズムに合わせた支援をされています。(起床や朝食なども個別に支援されています)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画作成にあたり、ケアについて記録されている様式に工夫がなされています。入居者の状況が見やすく、分かりやすいものになるように、サービス計画実施状況を週1回モニタリング出来るような様式にされています。また、職員全員がケアの取り組みに対して共有できるように思考錯誤を繰り返しながら作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとサービス計画実施状況の週1回のモニタリングを通して、家族の意見も聞きながら随時現状に即した見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自立した入居者が職員と一緒に菜園活動に取り組みられています。肥料を与えたり、毎日の水やり、収穫期には他の入居者と一緒に豆のさやをむき、美味しい豆ご飯を作られたりしておられます。家族の状況により、通院介助が行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望によりホームの協力医に替わる事が多く、2週間に1回の往診を受けられ適切な医療で支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが対応し得る、重度化したケアについては支援されています。法人としては、終末期に対して取り組む予定で指針は出来ていますが、現在終末期を受け入れるにあたり医療面のバックアップ体制が出来ていないため難しい状況です。家族から看取りについて質問される事があり説明されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇面では、利用者の尊厳を守る為、ユニットカンファレンスなどで常に話し合っていて、基本的な対応ができるように配慮されています。記録など個人情報は各事務所のキャビネットに適正に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっていますが、入居者の思いを大切にされています。入居者がそれぞれの時間に起床されても、個々に合わせて対応されています。その日をどのように過ごすか入居者の希望に添って支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すべて手作りを基本とされています。本部の管理栄養士により栄養面が管理されています。ホームには調理員が配属されていて美味しい食事を提供されています。各ユニット事に出来る方は、下膳されたり洗い物を職員と一緒にされていますが、身体状況の低下により、調理は難しくなってきています。誕生会では、入居者の好きなものが作られたり外食に行かれたりされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上入浴が出来ます。時間は午後からとなっていますが希望があれば毎日でも入浴は可能です。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニット事に特色があり1階(太陽)では、手作業(折り紙、手芸、ぬり絵、)や歌、菜園活動などを楽しんでいます。2階(虹)では外出が多くなっています。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回、車で食事に出掛けられています。近くのスーパーやコンビニにも出かけ買物を楽しんでいます。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当時に比べると施錠されている所が増えています。家族との話し合いで玄関は防犯上の為、2階ユニット入り口は、階段からの転落防止のために施錠されています。他にスタッフルーム、トイレ、浴室など危険とおもわれる箇所も施錠されています。	○	危険回避のために施錠しているが、検討して「開かれた環境整備を整えていきます」との管理者の言葉に期待しています。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、自主的に避難訓練(夜間想定した)をされています。現在は、地域の協力は得ていませんが隣がオーナーで、話合えば協力して頂ける関係にあります。	○	夜間などスタッフだけの誘導には限界があります。地域の協力を得る為にオーナーの方を通してホームの事を発信し、また、運営推進会議などで話し合われてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の本部で、管理栄養士が献立を作成され必要な栄養摂取量は確保されています。毎日1リットル以上を摂取するよう水分チェック表に記載され把握されています。食事・おやつ等の時間にほうじ茶、番茶、コーヒー、紅茶など嗜好に配慮され水分を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、広いフロアに隣接してキッチンが配置され、フロアから各居室へと繋がり、入居者は、自由に入出入りされています。テーブルが4箇所用意されゆったりとした座席となっています。ソファーに座り、とテレビを観て過ごす方や居室で過ごす方など、入居者の思いで過ごされています。庭で菜園・花づくりがなされていて季節感があふれ癒しの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や好みの小物、また、仏壇等も持参され、入居者に合わせた居心地よい空間づくりに配慮されています。		